

両市に共通する課題

①両市間の移動 (通勤、買い物、 通院)

- ・大牟田市、荒尾市両市間をまたぐ移動(通勤、買い物、通院等)が見られるが、移動手段は自動車の割合が高い状況。
 - ・大牟田市の南部地域、荒尾市の荒尾地区では、市域をまたぐ移動において路線バスの利用が見られるものの、JRや西鉄バスの利用は少数にとどまっている。
- 大牟田市と荒尾市間で、自動車による移動が主体的である一方、高齢化が進む中、移動困難者が増える可能性がある。その際、市外移動を支える公共交通手段が必要。
- 両市間の流動を支える公共交通の維持、確保が必要。

②両市間の移動 (通学／高校生)

- ・大牟田市、荒尾市両市間をまたぐ通学移動が見られ、荒尾市から大牟田市内の高校に通学する高校生はJR利用が25%程度を占めるものの、晴天時・雨天時ともに駅への移動手段として路線バスはほぼ利用されていない。
 - ・荒尾市からは休日に高校生が大牟田市(イオンモール大牟田)へ多く移動している。
 - ・大牟田市から荒尾市への通学手段はスクールバスが多い。
- 両市間の流動を支える公共交通の維持、確保が必要。

③両市間の 公共交通網と生活 目的利用へのニーズ

- ・高齢者の買い物や通院、高校生の休日の外出において市域をまたぐ移動ニーズが高い。
 - ・公共交通を改善する際に重視することとして、バスの運行本数の増加が最も多く指摘されている。バスやJR等との接続(乗り継ぎ)も多くなっている。
- 荒尾市から大牟田市(イオンモール大牟田)への移動ニーズが多い傾向にあり、大牟田市から荒尾市へは買い物での移動があるため、バスやJRの維持・接続等が必要となる。

④観光来訪者の移 動およびニーズ

- ・観光での来訪及び周遊の手段は自動車が多いが、鉄道、路線バスを利用する観光客も一定程度見られる。
 - ・観光来訪者においても路線バスのアクセス性の改善、両市や周辺地域をまたがる周遊路線の運行についてニーズが高い。
 - ・公共交通へのニーズとして、路線バスでの観光地へのアクセス、鉄道とバスの接続が多くなっている。
- 観光客数の維持、増加に向け、観光地への公共交通でのアクセスの強化、主要な観光地間を周遊可能な移動手段の確保が必要。